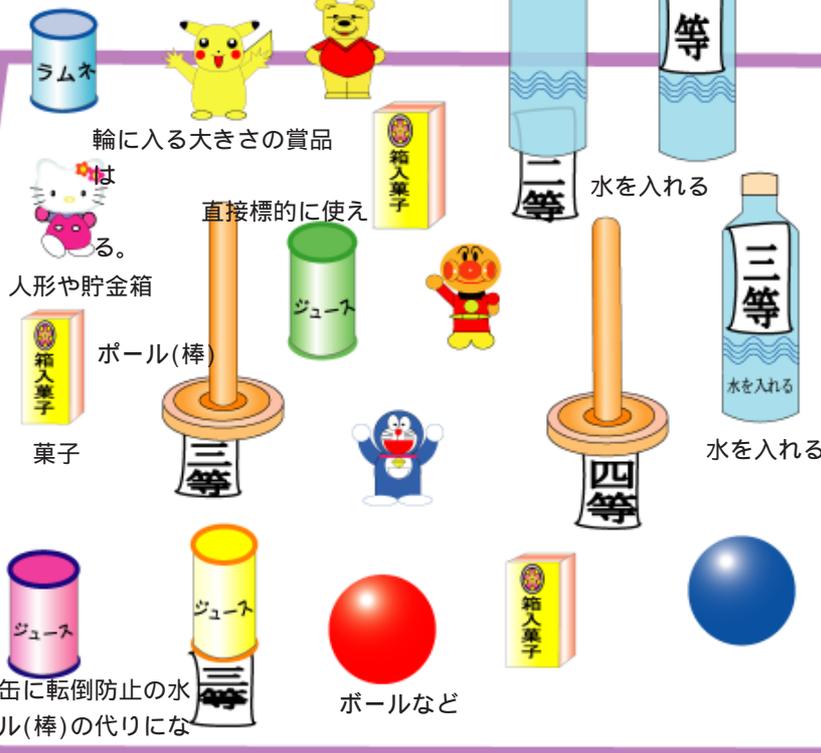
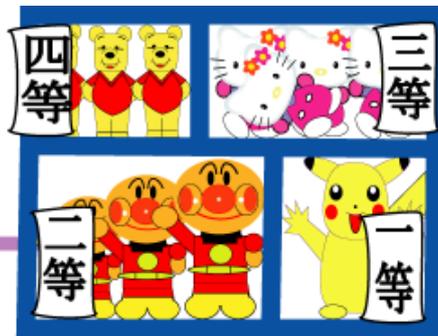




輪投げのやり方

敷物として、レジャーマットや毛布などを利用すると、輪がバウンドさせないための緩衝材となる。



輪に収まらない賞品でも、ボールやペットボトル、ジュースの空き缶で代用し、名前や等級を書いて知らせておけば景品として使える。

ペットボトルをポール(棒)の代わりに使用する。転倒防止に水を入れておく



看板が必要である。料金や、成功不成功の条件、賞品の種類などを知らせる

空のジュース缶に転倒防止の水を入れとポール(棒)の代りになる。



輪の大きさは直径12cmが標準である。その他業務用は8cm、幼児用に18cmのものがある。

輪投げの場合は、下に舞台や縁台を置いて高めにしたほうが輪の回収や賞品の設置などの作業が楽に出来る。

輪の回収棒(自作する)
カギの部分の曲線は半円ではなく、なだらかなカーブにすると回収しやすい

必要な材料、器材

敷物

輪がジャンプしない用に輪投げの商品の下に敷く。(下が弾んでしまうと成功の判定ができない)レジャーマットや毛布等を利用。

輪の回収棒

棒の先に針金のフックを針金などで巻きつけて作る。輪を拾う動作は意外と疲れ(甘くみると大変ですよ!!)なので、この用具はたいへん便利です。

景品を渡すときに入れる皿

的中の場合はその景品を、失敗した場合は参加賞をいれて渡す。2重渡しなどのミスが防げる

プレイヤーに示す輪投げの条件を書いた看板(張り紙)

一度に出来る輪投げの回数、成功不成功の判定、景品や参加賞についてなどを書いておく

その他文房具

マジックインク、模造紙、セロテープ、カッター等

景品について

ボール、トランプ、人形、貯金箱、ヨーヨー、消しゴム、箱入れ菓子、プラケース入り菓子など、要するに輪の中に納まるおおきさで、安定のよいものなら何でもよい

輪の中に入らない大きなものを景品に使う場合はペットボトルやポール(棒)、空き缶等で代用する。賞品そのものや、輪投げの再挑戦券などもよい

演出について

(ルール作り)

成功の判定を決める(たとえば、輪がスッポリ賞品に入った場合を成功として、半懸けは駄目など)

一度に出来る輪投げの回数は2~3回が適当。プレイヤーの位置と景品が置いてある場との距離によつて的中難度が違って来る。経験からすると、景品は豪華なものも若干いれて、的中難度を高くし、はいりずらくして、しかもすべてを入らなかった場合には参加賞を渡すといったやり方が好評のようだ、これなら用意すべき景品の数量も事前に把握しやすい。